

佐賀県研究成果情報

ニホンナシ「幸水」における樹勢強化のための効果的な根接ぎ法					
<p>〔要約〕ニホンナシ「幸水」に根接ぎを行う場合、「マンシュウマメナシ」台木を直接根接ぎするよりも「二十世紀」を中間台としたものを根接ぎする方が活着率も高く、その後の台木の生育も優れる。</p>					
果樹試験場・落葉果樹研究担当				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ナ シ

〔背景・ねらい〕

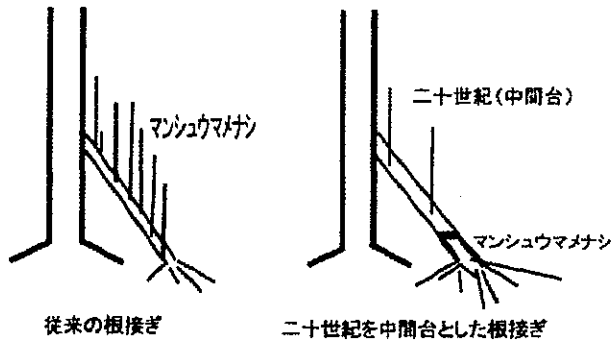
現在、九州各県では主力品種の「幸水」の樹齢が進み、樹勢低下が問題となっている。そのような中で樹勢強化対策の一つに根接ぎが行われているが、「マンシュウマメナシ」の「幸水」への根接ぎは活着率が低いことや新梢（ひこばえ）の発生が多いため「マンシュウマメナシ」台木の生育が遅れることから、根接ぎの効果が上がっていない。そこで、「二十世紀」を中間台とした新しい根接ぎの方法について活着率の向上やその後の生育促進等根接ぎの効果を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

1. 根接ぎ 10 ヶ月後の活着率（接ぎ木部が癒合し、枯死してない状態）は、「マンシュウマメナシ」台より「二十世紀」を中間台にして接いだ方が高い（表 1）。
2. 台木からの新梢（ひこばえ）発生本数は「二十世紀」中間台が「マンシュウマメナシ」台より少ない（表 2、図 1）。
3. 台木の生育量（直径）は「二十世紀」中間台が「マンシュウマメナシ」台より優れる（図 2）。
4. 根接ぎの手順については写真 1 に示す。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 根接ぎ適期は 4 月から 5 月であり、梅雨期を除き 7 月までには行う。
2. 根接ぎ用台木は根接ぎ当年植え付けでは活着率が低下するため、前年の秋季までには寄せ植えを行う。
3. 根接ぎ用台木を植え付ける場合、発根促進のために植え付け土壌にピートモスを 3 割程度混ぜ合わせる。
4. 台木から発生した新梢は出来るだけ早い時期（4 月下旬まで）に除去する。
5. 台木は輪紋病に感染しやすいため主感染時期である 6 月に薬剤防除を行う。



従来の根接ぎ 二十世紀を中間台とした根接ぎ

図1 中間台を用いた根接ぎ方法

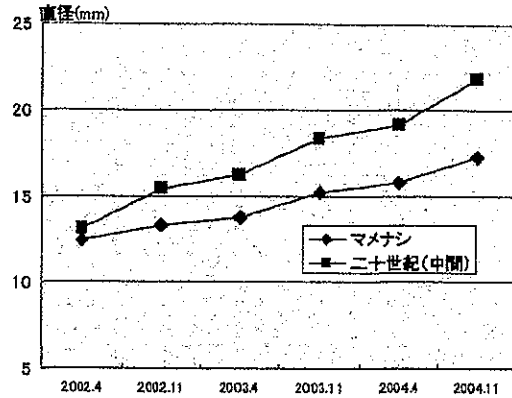


図2 根接ぎ台木生育(直径)の経時的変化

表1 根接ぎ後活着率の差異(2002年4月)

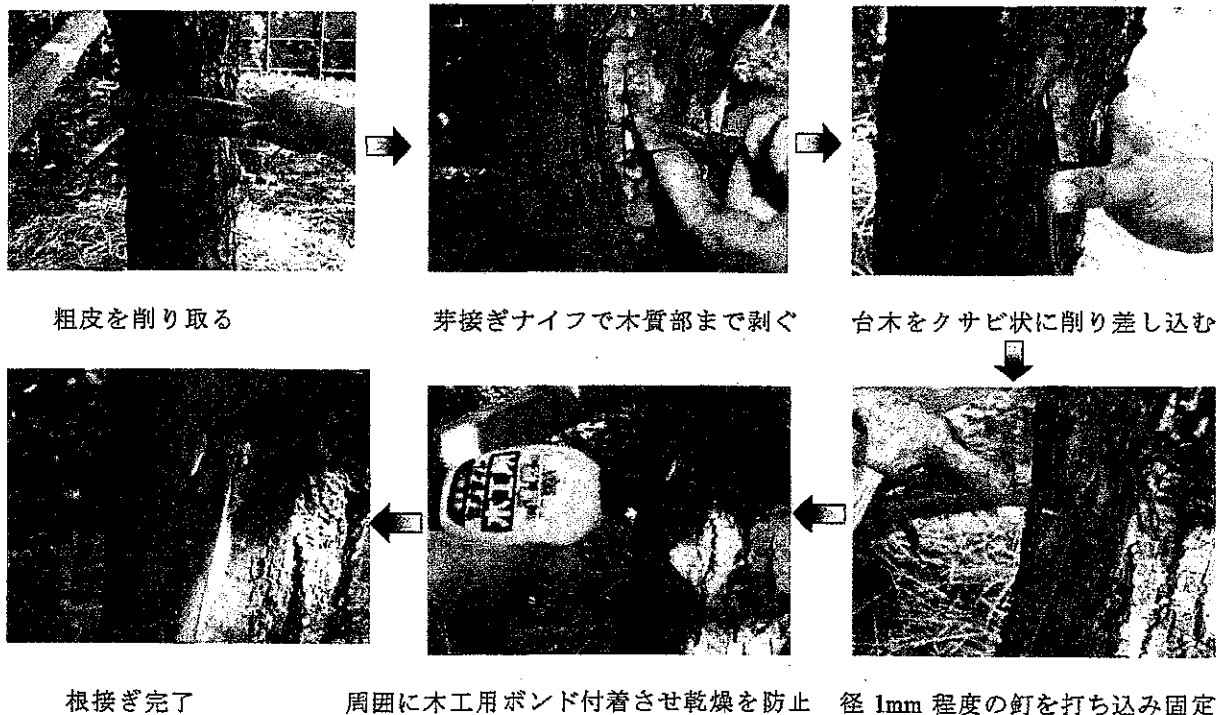
試験区	根接ぎ本数	接ぎ口の直径		活着数	活着率
		接ぎ木時	翌年4月		
マンシュウマメナシ区	30	11.8mm	12.4mm	18	60.0%
二十世紀(中間台)区	30	12.5	13.1	25	83.3

※ 2001年6月に根接ぎを行った。

表2 台木からの新梢(ひこばえ)発生調査(2004年)

試験区	新梢発生本数(1本あたり)		新梢総長(1本あたり)		平均新梢長	
	6月	9月	6月	9月	6月	9月
マンシュウマメナシ区	11.5本	3.3本	200.8cm	33.2cm	17.5cm	10.1cm
二十世紀(中間台)区	4.1	2.2	89.3	22.2	21.8	10.1

※ 6月22日に新梢発生調査後すべてせん除した。9月23日に除去後発生した新梢を調査した。



粗皮を削り取る

芽接ぎナイフで木質部まで剥ぐ

台木をクサビ状に削り差し込む



根接ぎ完了



周囲に木工用ボンド付着させ乾燥を防止



径1mm程度の釘を打ち込み固定

写真1 根接ぎ手順

【その他】

研究課題名：ナシ幸水の多収安定生産のための樹体新管理技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2001～2005年度

研究担当者：稲富和弘、福田浩幸、前山美和